

KOMAZAWA × HANNAN

牧野が7人目のキッカーを止めると歓喜の輪が！ベンチの選手たちも乱入し喜びを分かち合う（撮影・岩田陽一）

死闘を制し 夏の大学サッカーチャンピオンに



第27回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント決勝

駒澤大学1（6PK5）1阪南大学

強豪との連戦制し、
眞の大学王者に！！

2年連続、4度目の栄冠。昨年と手にしたタイトルは同じだが昨年とは全く別のチームの姿がそこにあった。決勝の相手は一昨年、同じ決勝の舞台でまさかの敗戦を喫した相手、阪南大。

「厳しくなることは予想していた」。橋本の言葉どおり前半は阪南大に試合の主導権をにぎられる。26分、阪南大・安部のパスを受けた大西の豪快なボレーシュートが決まり、先制点を許してしまう。決勝という大舞台で今大会初の失点を許してしまう。

今大会、得点したのは後半に入ってからのみ。駒大はこの日もなかなか目を覚まさない。失点をしても駒大は本来の攻撃の形を作ることができないまま、シュート2本のみで前半終了。

試合は後半に入ってから阪南大ペースですすんでいった。こんなはずではないと東京から駆けつけた部員たちの応援にもひとときわ熱が入る。やっとのことで駒大が目覚めたのは後半24分。右サイドからの橋本のクロスボールに飛込んだ赤嶺が頭で合わせ、待望の同点弾が生まれた。この得点で流れは完全に駒大。橋本の鋭いシュートや小林のオーバーラップなどで果敢に阪南大陣内へ攻めいる。39分には怪我で戦線離脱していた永井を投入しさらに攻撃の手を強める。だが、優勝を争う試合だけに阪南大も意地を見せゴールをなかなか許さない。両者追加点を奪えず、試合は延長戦へ。

延長戦に入り試合はますます激しさを増すが結局決着がつかないまま終了のホイッスル。駒大は準決勝に続き、またもPK戦で決着をつけることとなった。静寂のなか牧野が1本目をセーブ。これで駒大に勝利をもたらしたかに思われた。しかし、5人目、これを決めれば勝ちという場面で鈴木が痛恨のシュートミス。「悩んでしまった」というシュートは、バレーを直撃。しかし、準決勝、チームを崖っぷちから救った男はこの日も落ち着いていた。「新人戦でキャプテンを任されて成長できたことが大きい」（牧野。頼